

【渋川女子高等学校アメリカ研修 8日目報告書】

研修8日目は、ボストンを離れ、ニューヨーク・マンハッタンへと向かう移動日。早朝、各家庭をタクシーで回りながら空港へ向かいましたが、涙の別れ…というよりは、意外にも和やかな雰囲気。「じゃあね!」「また来るね!」と手を振る姿に、少し拍子抜けするほどでした。この時点では、まだ生徒たち自身も、この数日間がどれほど大きな時間だったのか、実感しきれていなかったのかもしれない。

マンハッタンまでは大型バスで移動し、途中のサービスエリアで昼食を購入しました。研修初日にも同じように立ち寄った場所ですが、今回は様子がまるで違います。英語での注文も、支払いも、驚くほどスムーズ。列に並びながら「これでいいんだよね?」と不安そうにしていた姿はもうありません。「あ、これ前もやったやつだ」と言わんばかりの余裕すら感じられ、本人たちは気づいていないかもしれませんが、確実に成長しています。

ニューヨーク到着後は、メトロポリタン美術館(MET)を訪問しました。世界最大級の美術館として知られ、古代エジプトから現代美術まで、時代も地域も超えた作品が並びます。広大な館内を前に、「全部は見きれないね」と笑い合いながらも、それぞれが興味のある展示に足を運び、自分なりの視点で鑑賞していました。研修序盤なら「どこ見ればいいの?」と戸惑っていた生徒たちが、「私はここ見てくるね」と自然に行動している姿に、小さな自立の芽を感じました。続いて訪れたロックフェラーセンターでは、クリスマスツリーを見学しました。世界中から集まった観光客で周辺は大混雑。それでも「人多すぎ!」と笑いながら、人の流れを読み、仲間同士で声を掛け合って進む姿は頼もしいものです。少し前なら不安で立ち止まっていたかもしれませんが、今はこの“カオス”すら楽しめる余裕がありました。

夕食後はタイムズスクエアで自由時間。無数のネオン、巨大な広告、観光客の波。まさにニューヨークらしい光景の中、生徒たちは思い思いに街を満喫しました。M&M'sやハーシーズ、ディズニョップを巡る生徒、少し疲れてホテルのラウンジで休憩する生徒。それぞれが「自分のペース」を選べるようになってきていることも、この研修での成長の一つです。なお、マリオットのラウンジはクリスマス仕様で、生徒以上に引率者のテンションが上がっていたかもしれません。続いてバッテリーパークから自由の女神像を遠望しました。夜景の中に小さく浮かぶ姿でしたが、「あれが自由の女神…」と静かに見つめる表情。冷たい海風に身を縮めながらも、ここまで来た自分たちを、どこか誇らしげに感じているようにも見えました。その後、ブルックリンブリッジを車窓から眺めながらJFK空港へ向かいます。

空港での手続きも、研修初日とは比べものにならないほど落ち着いていました。最初は不安でいっぱいだった研修が、「自分にもできる」という確かな自信に変わっていることを感じました。観光を楽しみながらも、知らない場所で判断し、行動する力を身につけてきました。表情は軽やかでも、その内側では確実に何か積み重なっています。この経験が、これからの人生で新しい一歩を踏み出すときの支えになることを願っています。





